

2024 年度 事業計画書

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

当財団の使命は、公募により選んだ前途有為な学生に奨学支援を行うことを通じて、国際的な友好親善を増進することである。この使命のもと、40 年以上にわたりインドネシアを支援対象国とし、同国と日本の留学生への支援を実施してきた。これまでに日本の大学の自然科学系大学院修士課程への留学を希望するインドネシア人 150 名を奨学生として採用し、また、インドネシアでの調査・研究を希望する日本人 65 名を採用した。

更に 2022 年度からオーストラリアとアラブ首長国連邦(以下 UAE)を支援対象国に加え、2024 年度奨学生として日本の大学へ留学を希望するオーストラリア人 1 名、ならびに UAE 人 1 名を採用した。また、オーストラリアでの調査・研究を希望する日本人 1 名、UAE での調査・研究を希望する日本人 1 名を採用した。

1. 奨学事業

1) インドネシア人奨学生

2023 年度末におけるインドネシア人奨学生の状況は、以下のとおりである。

- 2021 年度奨学生 3 名は、コロナ感染症拡大により来日が約半年遅れたが、2021 年 4 月より大学院修士課程に入学し、2024 年 3 月大学院修士課程をそれぞれ無事修了し、当財団の支援は全て終了した。
- 2022 年度奨学生 3 名は、2024 年 4 月より大学院修士課程 2 年に進級して、研究を継続する予定である。
- 2023 年度奨学生 3 名の中 2 名は、2023 年 5 月と 9 月にそれぞれ来日し、10 月より大学院修士課程に入学し研究を開始した。残りの 1 名は 2023 年 8 月に来日し、9 月より研究生として活動を開始、2024 年 4 月より大学院修士課程に進学する予定である。

従って当事業年度は、新規採用見込みの 2024 年度奨学生 3 名を加えた以下の 9 名に対し、下記奨学金を支給する。

2022 年度奨学生（修士 2 年在学者；3 名）	915 万円
2023 年度奨学生（修士 1 年在学者；3 名）	825 万円
2024 年度奨学生（新規採用；3 名） ※2024 年 9 月末来日と想定	700 万円
計	2,440 万円

なおインドネシア人奨学生に対し、当財団が来日から帰国までの最長2年8カ月の間に支給する奨学金総額は、大学院の授業料等にも依るが、モデル計算では約825万円（国立大学のケース）と見込まれる。

支給費目は以下の通り。

渡航費（往復）	：エコノミークラス航空運賃
到着金	：6万円
学費等	：実費（修士課程の学費の外に大学院研究生としての学費、 受験料、入学金、日本語学校学費なども対象とする）
奨学金	：512万円（月額16万円×32ヶ月）
死亡・後遺障害保険料	：財団の既定保険金額に係る保険料
学会参加費	：実費（年間10万円が上限）
通学定期券	：実費

2) オーストラリア人奨学生

2023年度奨学生2名、および新規採用見込みの2024年度奨学生1名に対して下記奨学金を支給する。なお2023年度に初めて採用したオーストラリア人2名は、それぞれ受け入れ先大学の都合等により依然として渡日しておらず、両名とも2024年9月ごろには来日出来る見込みである。

2023年度奨学生（修士課程進学予定；2名） ※2024年9月末日と想定	500万円
2024年度奨学生（新規採用；1名） ※2024年9月末日と想定	230万円
計	730万円

3) UAE人奨学生

新規採用見込みの2024年度奨学生1名に対し、下記奨学金を支給する。

2024年度奨学生（新規採用；1名） ※2024年9月末日と想定	230万円
計	230万円

4) 日本人奨学生

2023年度末における日本人奨学生の状況は、以下のとおりである。

- 2020年度奨学生1名は2022年5月にインドネシアへ渡航、ウダヤナ大学での研究を開始し、2024年4月に帰国する予定である。

- 2021年度奨学生1名は、2023年2月にインドネシアへ渡航、ウダヤナ大学での研究を開始し、2024年7月ごろ帰国する予定である。
- 2023年度奨学生1名（研究対象インドネシア）は、2023年12月にインドネシアへ渡航し、ジョクジャカルタで研究を開始した。
- 2023年度奨学生2名（研究対象オーストラリア）の中1名は、2023年3月にオーストラリアへ渡航し、アデレードにある南オーストラリア大学で研究を行い、2024年3月に帰国した。残りの1名は、2023年10月にオーストラリアへ渡航、ブリスベーンにあるグリフィス大学で研究を開始し、2024年6月に帰国する予定である。
- 2023年度奨学生1名（研究対象UAE）は、2023年9月にUAEへ渡航、アブダビにあるソルボンヌ大学アブダビ校で研究を開始し、2024年8月に帰国する予定である。

従って当事業年度は、新規採用見込みの2024年度奨学生5名を加えた以下の6名に対し、下記奨学金を支給する。

2021年度奨学生（研究対象インドネシア1名）	116万円
2023年度奨学生（研究対象インドネシア1名）	116万円
2023年度奨学生（研究対象オーストラリア1名）	116万円
2023年度奨学生（研究対象UAE1名）	116万円
2024年度奨学生（研究対象インドネシア3名） ※3名中1名は既にインドネシアに滞在しており2024年4月より支援開始、また残り2名は2024年8月頃インドネシアへ渡航と想定	416万円
2024年度奨学生（研究対象オーストラリア1名） ※2024年8月頃オーストラリア渡航と想定	150万円
2024年度奨学生（研究対象UAE1名） ※既にアブダビに滞在しており2024年4月より支援開始と想定	200万円
計	1,230万円

なお現地で調査・研究する日本人奨学生に対し、当財団が渡航から帰日までの最長2年間に支給する奨学金総額は、約360万円と見積もられる。支給費目は以下の通り。

渡航費（往復）	：エコノミークラス航空運賃
支度金	：2万円
奨学金	：360万円（月額15万円×24ヶ月）
海外旅行死亡傷害保険料	：財団の既定保険金額に係る保険料

5) 2025 年度奨学生の募集活動

来年度の奨学生の募集活動については、以下のとおり実施する予定である。

- 例年通り 2024 年 7 月上旬に財団のホームページを更新して、2025 年度の募集要項や奨学金申込書を公開する。
- 2024 年 8 月 1 日から奨学金申込書の受け付けを開始して、同 10 月 31 日に募集を締め切る。
- 受領した奨学金申込書や添付資料の書類審査を実施し、候補者の絞り込みを行う。
- 2024 年 12 月から 2025 年 1 月にかけて、最終候補者との面接を実施する。
- 2025 年 2 月、選考委員会を開催して、2025 年度に採用する奨学生の 1 次選考を行う。
- 2025 年 3 月、理事会にて 2025 年度に採用する奨学生を正式に決定する。

2. 活動資金関係

当財団が保有する資産については、安全性と収益性を十分に吟味して効率的な運用を図ることを基本とする。なお、低金利状況が継続している事業環境を踏まえ、より効率的で柔軟な運用について検討を進め、必要に応じ規程等の改正を実施する。当事業年度に不足する事業費については、2021 年 12 月に株式会社 INPEX から受領した寄付金(10 億円の中、奨学金事業に使用する 6 億円)の一部を充当する。

3. その他

- 1) 新規事業として、オーストラリアのチャールズダーウィン大学を対象とした交換留学生奨学金事業と高校生を対象とした青少年国際交流事業については、引き続き内閣府との協議を進め、変更認定申請が得られ次第、事業実施に向けて準備作業を開始する。
- 2) 2024 年度採用のインドネシア人、オーストラリア人、UAE 人奨学生に対し、志望校の修士入試日程等を調査し、日本語学校及び大学院（研究生及び修士課程）への出願等の諸手続き、来日後の諸手配等をサポートして、奨学生が所期の目的を達成できるよう受入支援活動を行う。
- 3) 来日した首都圏のインドネシア人、オーストラリア人、UAE 人留学生に対しては、定期的（およそ 3 ヶ月毎）に事務所に呼んで、面談するなど密接な連絡を保ち、随時、滞在資格更新手続き及び生活面での支援・指導を行う。
- 4) 日本人奨学生に対し、新規採用者については過去の奨学生の経験を紹介する等、渡航先での調査・研究許可の取得支援を行う。渡航した奨学生については、滞在中の定期的な通信を通して現地の生活や研究活動についての報告を求め、研究状況を把握する。

- 5) 交流活動として、年末交流会（現役奨学生、奨学生 OB、財団関係者などを対象とし 12 月に開催予定）、研究終了報告会（修士課程を修了する外国人奨学生及び研究終了し帰国した日本人奨学生を都度財団に招き研究結果を聴取、外国人奨学生の指導教官も招く）、及び事務局の 8 月インドネシア出張時のジャカルタと出張先都市でのインドネシア OB 会を行う。

以上